

報道機関各位

博物館美術館管理課

昨年度に収蔵された貴重な資料を一挙公開

新収蔵品展 令和 6 年度 収蔵資料 開幕のお知らせ

沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）では、5月23日（金）から「新収蔵品展 令和6年度収蔵資料」を開催しております。

本展では、令和6年度に寄贈・収集・購入・移管・修理された資料を、展示活動などを通して広くご紹介し、資料の価値や魅力を多くの方に親しんでいただくことを目指します。昨年度も、多数の貴重な資料が寄贈され、収集・購入分も含めて164件（19,203点）にのぼります。

展示には、記録上琉球王国最古の絵師である自了の「野國馬の図」や、民俗学者である柳田國男氏の所有していた「崇元寺下馬碑（拓本）」など、見応えのある品々がそろいます。

ぜひ取材にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



大型軽石

小笠原諸島の硫黄島の翁浜沖火口から2023年10月末頃に噴出したと思われる軽石です。これまで発見された硫黄島の軽石の中でも大型で、長辺の長さは50cm以上となっています。



崇元寺下馬碑（拓本）

崇元寺下馬碑の拓本です。もともと、民俗学者の柳田國男氏（1875－1962）が所蔵していたものであり、そこから弟子で同じく民俗学者の酒井卯作氏に渡ったものになります。



自了 作「野國馬の図」

琉球王国時代の絵師として記録が残る一番古い人物である自了が描いた馬の図です。現存数が極めて少なく、落款が確認されていたのはこれまで1例のみでしたが、本作は2例目として確認されました。元々は琉球国王・尚家に伝わっており、伝来も確かで年代もわかる大変貴重な資料です。



三線 知念大工 銘 暨性(きせい)

本作は、野村流を代表する演奏者で、琉球政府文化財保護委員会専門委員等を務めた池宮喜輝氏による戦前の鑑定証が附属しています。

王国時代から伝わる貴重な三線が、戦災を乗り越え、この度寄贈者の想いにより沖縄へ帰ってきました。

※ 広報用画像をご希望の方は  a-uechi@okichura.jp (上地) へご連絡下さい。

【展覧会概要】

展覧会名：「新収蔵品展 令和 6 年度収蔵資料」

会期：2025 年 5 月 23 日〔金〕～ 6 月 23 日〔月〕

主催：沖縄県立博物館・美術館

場所：沖縄県立博物館・美術館 3 階 博物館企画展示室

観覧料：一般 800 円／高大生 500 円／小中学生 無料

開館時間：9:00～18:00 (金・土は 20:00) ※ 最終入場は閉館の 30 分前まで

休館日：毎週月曜日 ※ 6 月 23 日 (月) は開館

【お問合せ先】

沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 (一財) 沖縄美ら島財団

企画班 広報営業担当 (上地・金城) 【TEL】098-941-1232 / 【FAX】098-941-2392